

福岡県米麦大豆生産改善速報 第2号

平成29年7月14日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

普通期水稻の生育概況と対策

1. 気象経過 [太宰府アメダス]

	6月20日～7月13日 (24日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	26.1	30.3	23.0	66.5	296
前年差(比)	+0.5	+0.9	+0.1	109	46
平年差(比)	+1.5	+1.6	+1.5	87	80

注) 平年は、1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 農林業総合試験場における生育概況

6月20日～7月13日の平均気温は平年より1.5℃高く、日照時間は23%少なく、降水量は20%少なかった。6月9日植「夢つくし」では、草丈は平年より29%高く、茎数は7%少なく、主稈葉数は0.8葉多かった。6月21日植「ヒノヒカリ」では、草丈は14～18%高く、茎数は農産部では15%少なく、筑後分場では13%多く、主稈葉数はいずれも0.4葉多かった。

3. 当面の対策

1) 水管理 6月9日植「夢つくし」の出穂期は8月8日頃と予想されるため、早急に中干しを終了し、幼穂形成期以降は水を切らないよう十分にかん水する。

6月中下旬植の早生～中晩生品種は、間断かん水を実施し、有効茎が確保され次第、中干しを開始する。特に「元気つくし」は、稈が伸びると倒伏が懸念されるため、中干しを徹底する。

用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5cm程度に設定し、雨水をしっかり保つように努め、中干しは実施しないか、弱めにする。

2) 施肥 6月9日植「夢つくし」の穂肥施用時期は7月22日頃で、穂肥は生育診断に基づいて施用する。葉色が低下した状態で高温が続くと白未熟粒が発生しやすくなることから、幼穂形成期頃に肥料切れが見られる場合には、出穂前10日頃までに穂肥を施用する。

3) 病虫害防除 いもち病やウンカ類の発生に注意する。特に、いもち病の常発地では、必ず初発時に防除を行う。葉いもちが多発した場合は、穂肥の施用量を減量する。

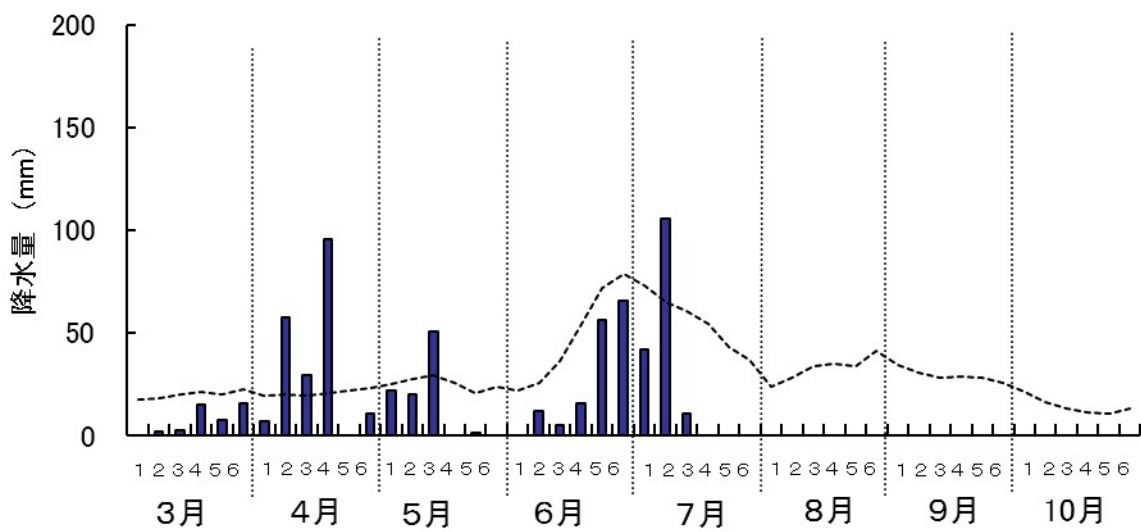
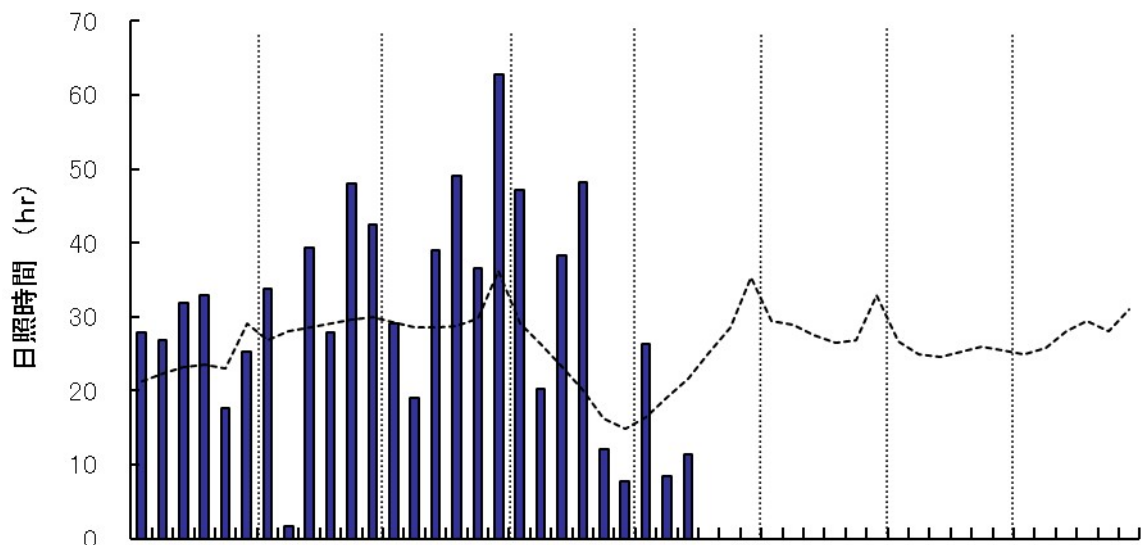
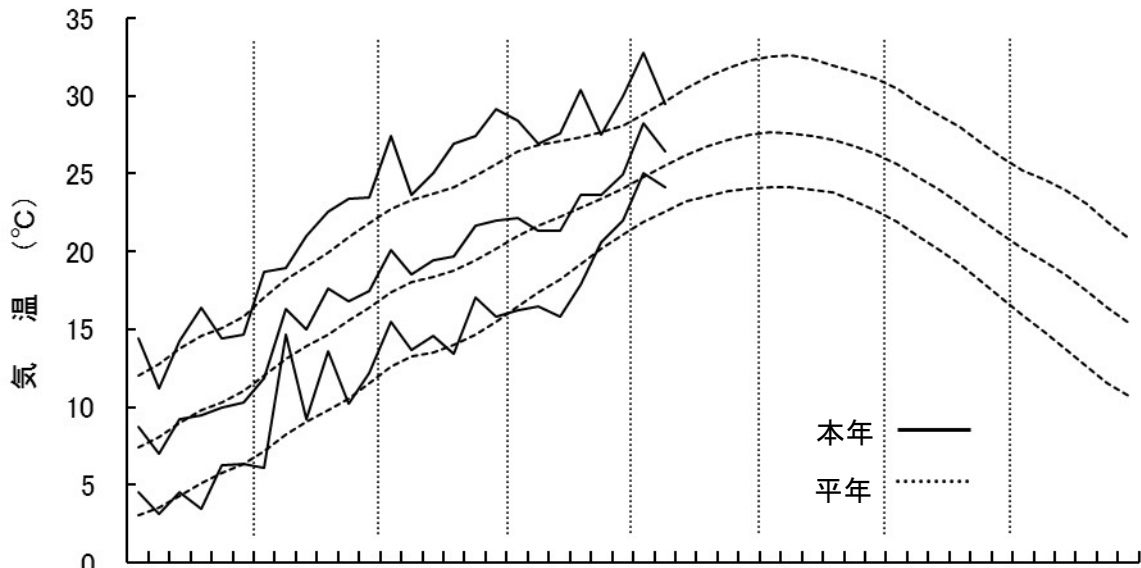
4) 雑草防除 雑草の発生が多いほ場では、中後期処理除草剤を処理する。

除草剤は「普通作雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

4. 農林業総合試験場における調査成績

調査場所	移植期	品種	年次	移植期			7月14日		
				苗長 (cm)	苗齢 (L)	乾物重 (mg/本)	草丈 (cm)	m ² 当たり 茎数 (本)	主稈 葉数 (L)
農産部	6/9	夢つくし	本年	10.2	2.5	17.7	78	450	10.7
			前年比(差)	78	-0.1	95	115	94	+0.1
			平年比(差)	90	0.0	114	129	93	+0.8
	6/21	元気つくし	本年	11.5	2.3	17.1	52	275	8.4
			前年比(差)	83	-0.1	113	102	109	-0.1
			前8年比(差)	80	0.0	115	115	87	+0.3
6/21	ヒノヒカリ	本年	9.0	2.7	16.3	43	293	8.5	
		前年比(差)	82	-0.2	110	111	102	-0.1	
		平年比(差)	73	0.0	122	114	85	+0.4	
筑後分場	6/21	元気つくし	本年	9.8	2.4	16.1	52	430	8.9
			前年比(差)	69	-0.3	103	104	116	+0.4
			前9年比(差)	74	-0.3	108	113	103	+0.4
	6/21	ヒノヒカリ	本年	9.0	3.0	15.5	46	481	8.9
			前年比(差)	78	+0.1	106	113	118	+0.2
			平年比(差)	78	+0.1	112	118	113	+0.4

注) ①平年値は過去10か年の平均値。
 ②この値は暫定値で、今後変更することがある。



2017年(平成29年)夏作期間の気象(太宰府アメダス)